

- 日本農業のうつりかわり……………(2)
県知事の計画認定をうけるまで……………(3)
基本計画のあらまし……………(4)
実施計画のあらまし……………(5)

あんない

- 飯野地区計画のあらまし……………(6)
浦山新地区計画のあらまし……………(8)
地区をこえる計画のあらまし……………(10)

くにわらせん

昭和38年3月 入善町
役場～農業計画事務局

あいさつ

町長 米沢 甚吾

国の政策である国民所得の倍增計画には諸般の産業についていろいろ新政策が策定されているのでありますが、農業に関しては諸産業より相当な低所得なので、これを一定水準まで引き上げるため農業基本法が制定されたのであります。

この一端として農業構造改善事業が決定されました。富山県においては昭和三十七年度において二市二町がこの線に入ることになったのであります。

農業を以て第一の産業とする入善町においては、これが恩恵に浴すべく町議会および農業に関するいろいろの委員会と相諮り、第一年度にこれが指定を受くべく県当局並びに農林省に力強く働きかけたのであります。

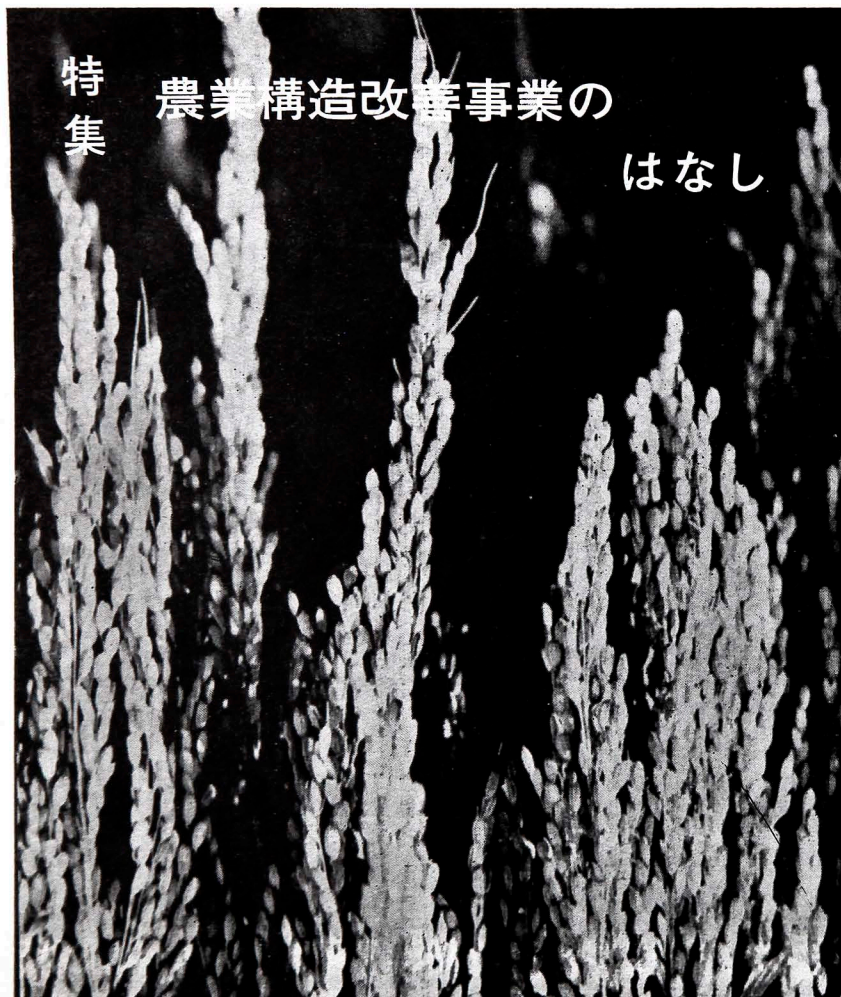
町議会および農業関係機関の御協力による御推進は云うまでもなく、町出身県議および在京の諸先生各位の並々な御努力により、昨年一月二二日わが入善町が農業構造改善事業指定町として決定されたことは、まことに喜びに堪えないと共に各位に対して深甚の敬意と感謝の意を表するものであります。この経過において、初年度にこの事業を計画するよりも二・三年後において他の市町村のなされた事業の状況を見てから実施した方がよいのではないかと注意した人もありました。この事業が一日早ければ一日早く町のためになるとかんがえ、万難を排して作業を進めたのであります。

第一の基盤整備については平曾川沿岸土地改良区の主体により笹原および高島の両工区において(三〇九反)既に着手され、工事が三十八年度の植付は心配ないとかんがえられます。

第二のチューリップ関係については、現集荷場のとなり二〇〇坪の建築がなされつゝあります。

第三の市乳関係については、チューリップ集荷場建築地のとなり新国道八号線添いに一〇七坪の工事が着々進行しております。飯野地区の計画は入善町のパイロットとも申すべきものであつて、これをもととして入善町の耕地面積四〇〇〇町歩に対して逐次基盤整備を完成したいかんがえであります。

以上農業構造改善事業の経過を申し上げて、今後の入善町の農業の進展をいやがうえにも盛り上げたものであります。



特集

農業構造改善事業の

はなし

はじめに

終戦以来、日本の農業を良くするために、たくさんの方々が力をこめて取り組まれました。現在、全国に二五〇市町村で実施されている「農業構造改善事業」は、関心がもたれ、意見の百出した事業はかつてありませんでした。この事業は、関心と意見の範囲が、単に農業の面だけではなく、全国的に、また国全体の産業におよぶという広さと、厚さをもっています。このことは、とりもなおさず、日本の農業が、家と経営、国全体の産業

どのようなみちを通って農業構造改善事業が実施されることになったかを、お話しする先きに、終戦（昭和二年）後日本の農業が、どのように変ってきたかを、ふりかえってみておきましょう。

◇食糧増産の時代（二〇～二五年）
国の経済のため直しとならんで農政は、国民の食糧を一粒でも多くつくるための施策がすべてでした。またこの期間は農家所得が都市勤労者世帯の実収入よりも高く、作れば必ず売れる時代でした。

◇食糧の統制かんと和の時代（昭二六～三〇年）
昭和二六年に入りますと、米以外の農産物が統制からはずされました。昭和二八年には、国民所得全体のうちの農業所得の割合が、昭和二〇年三・一％から昭和二八年一・六％に低下し、農家所得が都市勤労者世帯実収入よりも低くなりました。もちろん農家の所得も増加してありますが、その内容は、農業以外の収入の増加が目立ってきました。農機具と家畜が、経営にとり入れられ、農業生産力（特に耕種）がいちじるしくのびました。

国の経済がめざましく発展し農家と都市勤労者世帯との所得の差がだんだんひろがり、世界の農産物が余り気味になり、国民の食生活が量から、ウマイものを望むようになり、国の農業施策が、情勢のうつりかわりに

1. 日本農業のうつりかわり

経済と農業、さらに世界の農業と日本の農業と、今まであまりふれられなかった面にまで、卒直にメスを入れ、そこから、これからの日本の農業の方向をかんがえなおしてみる時期がきたことを意味しています。

むろん、そのことは、国全体で農業の問題を心配しなければならぬことを意味しています。誰よりも、先ず、農家が農業を良くするために積極的動き出す必要があります。

「農業構造改善事業」はそれらのことを念頭におきながら「農政として、それぞれの土地に適した作物や、家畜を、部落や村がまとまってつくり、農作業と販売を共同でおこない、農業収入を増す」ことをねらいに総合助成事業等が実施され、棚田地区等で共同集荷所、その他がなされました。また二、三男対策がきやかだったのもこの時期です。

◇村づくり政策の時代（昭三一～三五年）
ほぼ、昭和三年から日本の経済があたらしい時代に入ったといわれています。日本経済は世界で、もっとも高い成長率を示しましたが、その主役は農業以外の産業部門であってそのためには農村の若い労働力が是非とも必要となってきました。

昭和三年頃から貿易の自由化が具体的に検討され、世界の農業に太刀うちできる日本の農業を、といわれるようになり、つまり日本の農業は、あたらしい働き手が農業に残らないこと、世界の農業に残るだけ負けないような経営のやり方を心配しなければならなくなったわけでした。

昭和四四年に、これからの日本の農業の方向をまとめるために、農林漁業基本問題調査会が

業経営のやり方のシクミ」をおもいきって改善することをねらいとしており、農業全体の複雑なシクミを改善する性格の事業ではありません。

入善町は、全国二五〇市町村の仲間入りをして、昭和三十七年度からこの事業を実施することになりました。

個々の事業は、それぞれの事業主体が実施することになります。事業の実施にあたっては国、県、町がそれぞれの段階で協力することになります。

国は、あたらしい農業総合施策として、

「もうかる農業にするために一〇〇〇戸ぐらゐの範囲を地域として、農・山・漁業をのばすために土地を立派にし、土地に適したものをつくり、技術を改良し、共同施設を設け、生活を改善する、あたらしい村づくり（新農山漁村建設事業）」が実施され、入善町では五八におよぶ多くの事業が実施されました。

この時代の農業の変わり方はいへんなもので、多角経営から単純経営に、二、三男対策から、逆に長男も百姓に残らなくなった対策等、めまぐるしいものがありました。

◇農業基本法の成立
昭和三六年、それこそ国をあげての農業基本法論議がひろげられました。法案は政府案、社会党案、民社党案の三ツが出され政府案が成立しました。この法律はよく農業憲法ともいわれます。基本法は、農業の果してきた役割をたゞえ、これからの国にとって重要な使命をもつことを強調し、農業が国全体の力で、他の産業に劣らない所得と健康で文化的な生活ができるよ

町農業構造改善事業協議会

会長	米沢 甚吾	町長
会長代理	柏原 良作	農委会長代理
代理	清田 清一	町助役
委員	福沢 忠命	町議長
	西島 三郎	同産建委員長
	榎本 栄吉	農委委員長
	腰本 良造	農共組合長
	五十里 系吉	入善農協長
	目沢 広吉	上原
	野沢 幸与	青木
	笹島 太一	飯野
	寺林 幸作	小摺戸
	寺崎 重尚	新屋
	島 庄一	棚田
	亀田 啓作	横山
	上野 広幸	舟見
	前田 正文	野中
	大田 元長	町酪農協長
	五十里 浅吉	入善土改区
	西村 亀次郎	上原
	杉原文次郎	青木
	永原 数之	平川川沿岸
	松原 栄蔵	小摺戸
	中林 佐一郎	新屋
	大田 梶松	棚田
	亀田 啓作	横山
	野島 邦次	愛本新用水
	大野 亀吉	野中
	松原 薫	町球根組
	島田 久之	農協青連協
	谷 雪枝	農協婦連協
	五十里 隆彰	農青少連協
	佐藤 正浩	農耕地事務
	杉沢 吉郎	入善高校
	中村 美登	家畜保健所
	若林 喜作	農改善及所

うにすることをうたっています。また、施策としては、農業生産物の価格、流通、輸出入、農業構造の改善等農業全体についてふれていますが、二十一条では、農業構造改善事業に対しては、国は総合的に助成することを定めています。

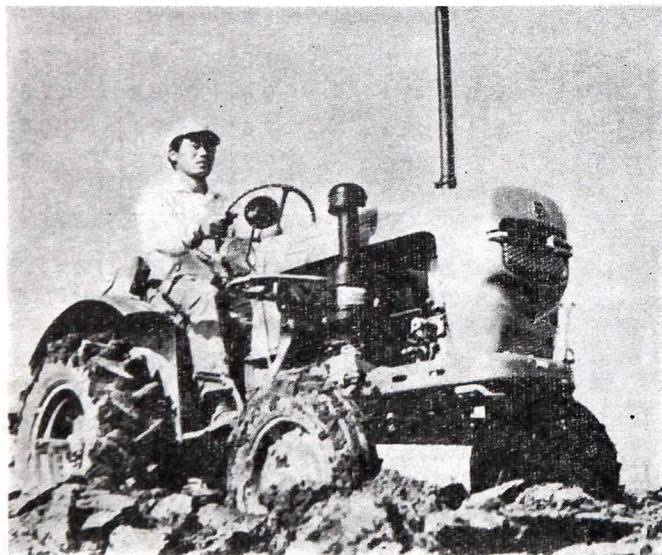
これからの農業施策は、農業基本法を土台にしておこなわれるわけですし、農家もたえずそのことに注意してゆかねばなりません。

昭和37年度全国実施地区の基幹作目

基幹作目	パイロット地区 (76地区)	一般地域 (174地域)	計	基幹作目	パイロット地区	一般地域	計
てんさい	1	3	4	かき	1	5	6
牛乳	18	78	96	茶	2	3	5
米	32	66	98	鶏卵	7	39	46
肉牛	6	17	23	大豆・雑豆	1	6	7
りんご	4	14	18	なしり	3	3	6
もも	8	19	27	たばこ	2	2	4
ぶどう	2	8	10	らっかせい	1	1	2
養豚	5	30	35	球根	2	2	4
室内	3	17	20	かんしょ	2	2	4
みかん	1	3	4	計	108	363	471
	13	35	48				

富山県の実施地区の基幹作目

地区名	基幹作目
パイロット地区	米 (果樹)
一般地域	米乳球根 米乳球根 米かき 米豚
高岡市	米
小波市	米
勢田町	米
市善光川	米
高岡市	米
砺波市	米
入道滑	米



2. 県知事の計画認定をうけるまで

1. 新入善町建設計画

入善町は、昭和三三年度に「新入善町建設計画」をつくり、一〇年間の町政の方向を決定しました。その後、農業計画部門は、内外ともにいろいろな面でかわり方が目立ってききましたので、昭和三六年度予算に、農業計画部門だけを修正することねらいに入善町農業計画をつくる経費を計上しました

2. 第1次構改事業方針

その頃、国はあたらしい農業構造改善事業を実施する方針を出しました。町ではそれにあわせて、国の指定を受けて農業構造改善事業計画（町農業計画）をつくることに方針を決定しました。農業基本法が成立したのもこの時期です。

この当時（昭和三六年前半）の、国の農業構造改善事業の地域指定方針は、パイロット地区と予備調査地域を毎年指定してゆくというもので、パイロット地区

旧町村を範囲として、全国で毎年一〇〇地区程度指定し、国は、高率補助金および融資を集約的に投下し、農業構造改善のモデルをつくってゆき、周囲の地区にえいきようさせる

② 予備調査地域

農業構造改善事業計画をつくる市町村を、予備調査地域として毎年三〇〇地域程度指定してゆき、将来パイロット地区指定を受ける土台を養成する。ただし、事業の実施に對しては、国が補助金を交付しない。

と発表されました。富山県では次の市町村が指定の申請を出しました。

①パイロット地区 高岡市小勢地区、呉羽町老田地区
②予備調査地域 氷見市、砺波市、大沢野町、大島村、滑川市、黒部市、入善町

3. 第2次構改事業方針

昭和三六年度の後半になりますと、国の構改事業に対する地域指定の方針が大きく変わりました

①パイロット地区

内容は、第1次方針と変わらないが、地区指定は昭和三六

年だけで打ち切り、以後、指定はおこなわれない。（九二地区）

②一般地域

第1次方針では、事業費補助をもたない計画作成費補助のみをかんがえていたのですが、第2次方針では、おもしろい切った改正となり、パイロット地区指定の廃止にとともに、市町村を範囲とした地域指定（一般地域といわれています）をおこない、事業補助金を交付する。

なお県下の市町村では砺波市、入善町、滑川市、福光町が一般地域指定の名乗りをあげました

事業の性格

①まず、計画地域の指定をうけ、市町村長が農業構造改善事業基本計画および実施計画をつくり、市町村が五年ないし一〇

ケ年間に実施しようとする基本的構想（基本計画書）と、そのうち三年間に町、団体等が実施をする具体的な事業と、五年後の事業効果（実施計画書）をはっきりする。

入善町は昭和三七二年月末に計画地域の指定をうけました。

②1の計画書をつくり県知事の認定を受けた地域は、翌年ないし翌々年、年度の実施計画書をつくり知事の認定をうけた地

域は、三ヶ年間に国・県・町等の助成をうけて事業主体が事業を実施する。

入善町は、基本計画および実施計画作業に九月からかり、一月二日県知事の認定をうけ、年度実施計画は、昭和三八三年三月八日認定をうけました。このように第一回指定地域は、計画作業がたいへんはねでした

3. 計画の主な内容としては

①その土地に適した作物や家畜をえらび（適地適産）基幹作目として将来大きくのぼす。

②基幹作目を特にのぼすためのモデル地区（実施地区）をつくり、助成を集中する。

③基幹作目は、地区や地域でまとまって大量につくる（主産地形成）

④基幹作目をのぼすには、まず米作の労力を減らし、減らした労力をそれにふり向ける

⑤それによって農業所得を増大する。

⑥兼業者はツトメに出やすいようにする。

⑦婦人、老人の労力をへらす。

であり、計画には、以上のことを中心に長期の構想と、短期の具体的な実施計画内容が盛り込まなければなりません。

3. 基本計画のあらまし

基本計画のかたち

基本計画書には、入善町がこれから五〇年にわたって農業構造（主に経営と生産）を改善するための骨になるかんがえとして次の点をとりあげ、それがばらばらでなく、努力を省き、農業所得と農家所得を増し、あかるい家族経営が営まれるよう充分なかりをもつよう方針しました。

1. 農業生産

適地適産の面から、基幹作物として、米、花き球根（チューリップ等）、市乳（酪農）をえらび、三つの作目を中心に五〇種類ちかくも多くなる作目を、できるだけ少くするように整理しながら、経営技術を改善することによって、農業生産と所得を大きく増加するかんがえです。

2. 農業経営

最近兼業農家が漸増しており一応規模別にみた場合、五反一町五反層が減少し、三〇五反層と、一町五反以上層が増える傾向にあります。米と花き球根または、市乳を組みあわせることによって、農業だけで他産業従事者に負けない所得があり家族経営だけでほぼ生計をまかうことのできる農家（自立経営農家）が増えることを期待し農機具は、トラクター等大農機具利用となるので、農作業はできるだけ、集団化、共同化をめざしています。

3. 流通、販売

農業の生産が安定して、のびるためには、好しい価格で落着くことが必要です。農産物の価格は、国が心配しなければ安定しませんが、品質をたかめ、有利に販売するために、花き球根と牛乳を中心に販売施設を充実し、態勢については、球根は従

来どおり県花き球根農協を通じて輸出向けの方角を、酪農については将来黒東地域の中心となるよう、それぞれ強化する方針です。

4. 経営技術の方角

現在のように、個々の農家経営の規模を対象とした経営技術を、トラクター等の大型機械を土台にした、集団、共同経営に改めることにつとめ、そのことが順調にすすめられるよう区画整理等の基盤整備を実施する方針です。また、入善高校の農業教育もそれをバックアップする方向に充実するよう働きかけるかんがえです。なお、大農機具を使用しあたらしい技術をこなすことのできる農業者の養成につとめる方針です。

5. 農業労働力

あたらしい農業技術ができる方向に応じて、大農機具が使用でき、集団経営の世話ができるよう働き手をつくることを重点にかんがえています。

これからも、働き手の数が減ってゆくことでしようし、それを単にカバーするだけではなく積極的にあたらしい農業経営を目ざすためにも、特に学校教育する若者たちには、学校教育の場で充分技術を身につけて、農業に就いてもらう計画です。あたらしい農業経営をすすめてゆくことによって、過重だといわれている婦人や老人の労働を、できるだけ軽くすることも計画の重点です。それらのことを通じて、ゆたかで、のびのびとしたあたらしい家族経営をねらいとしています。

6. 農協合併

現在でもそうですが、農業の構造改善をすすめてゆく段階で農協の果す役割は非常に大きいわけで、あたらしい営農技術の指導と資本投下等の総合的推進からして経営規模の拡大が要望されますが、なんといっても農協と農家の意向が、方向づけを決定する力です。その自主性を尊重しながら、農協と相談してゆく計画です。

年令別の農業の働き手〔町〕	昭 和 3 3 年 度							昭 和 3 6 年 度							S.33年の100に対するS.36年の年令別指数	S.33の100に対するS.36年の男女別指数	
	総 数	男		女		年令別割合	総 数	男		女		年令別割合	男	女			
		人 数	割 合	人 数	割 合			人 数	割 合	人 数	割 合						
15 ～ 29才	2,015	790	39.2	1,225	60.8	22.0	1,449	486	33.5	963	66.5	17.5	72	62	79		
30 ～ 49才	3,817	1,389	36.4	2,428	63.6	41.7	3,590	1,219	34.0	2,371	66.0	43.4	94	88	98		
50 ～ 59才	1,737	701	40.4	1,036	59.6	19.0	1,675	635	37.9	1,040	62.1	20.2	96	91	100		
60才以上	1,580	751	47.5	829	52.5	17.3	1,565	751	48.0	814	52.0	18.9	99	100	98		
総 数	9,149	3,631	39.7	5,518	60.3	100.0	8,279	3,091	37.3	5,188	62.7	100.0	90	85	94		

注 農業従事者数は、農業専従者と、他産業従事者のうち農業を主とする者をプラスした数である。

学校卒業者の就業状況 中学卒業者

	卒業者 総数	就 業 者 内 訳											
		農 業		林 業		漁 業		第二次産業		第三次産業		就 業 者 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
昭 和 3 5 年	462	10	8	2	—	53	98	25	28	90	134		
〃 3 6 年	439	7	4	1	—	54	90	16	41	78	135		

高校卒業者

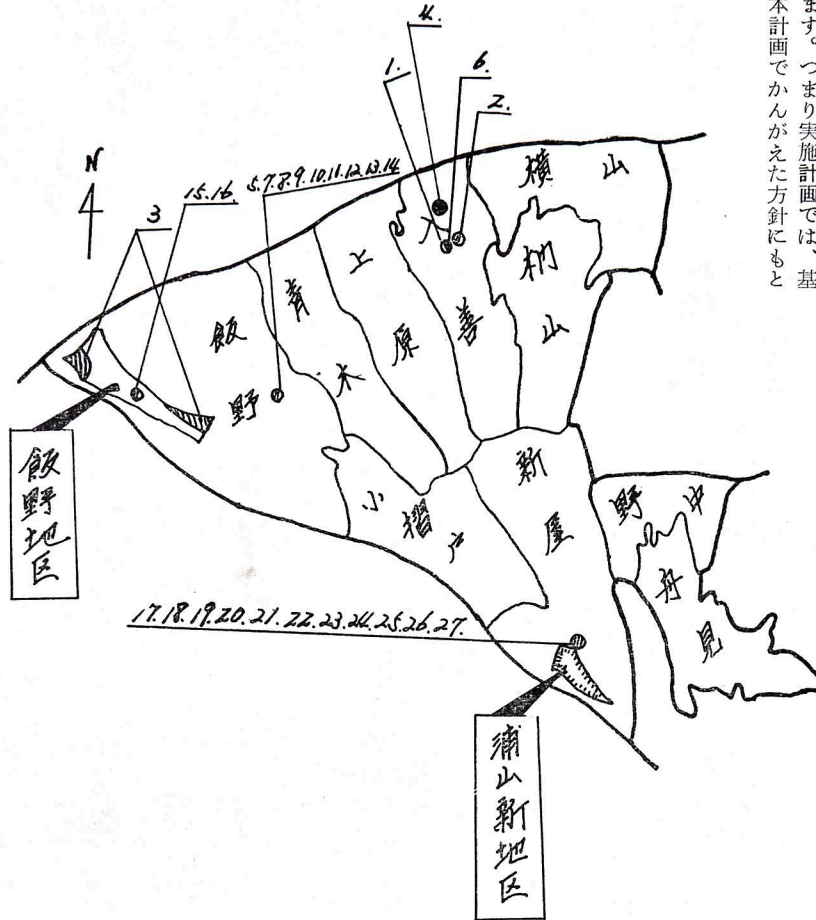
昭和35年	179	12	4	2	—	57	17	46	25	117	46
〃 36年	187	11	4	1	—	54	13	35	18	100	35

農業従事者数について昭和33年と昭和36年を比較すると男で540人、女で330人、計870人の減となり 農業従事者は約1割の減少を示しています。また農業従事者の年令別の構成割合について比較すると15才〜29才では昭和33年の農業従事者割合は22%であるが、昭和36年では17.5%と青年層でその構成割合が4.5%の減少となっているが 30才以上の年令層ではそれぞれの構成割合が僅かに増加しています。年令別の傾向では、青年層の特に男の農業従事者の減少が顕著で農業経営の近代化が叫ばれているおり、農業従事者の量的特に質的低下が目立っています。

事業位置図

説明表

番号	事業年度	事業種目	事業主体
1	37	集出荷所	県球根農協
2	〃	集乳所	町酪農農協
3	〃	区画整理	平曾川沿岸土
4	38	ブルトーザー	町
5	39	大規模穀類乾燥調整施設	飯野農協
6	〃	貯蔵所	町球根組合
7	〃	トラクター	飯野農協
8	〃	ロータリー	〃
9	〃	グレンドリル	〃
10	〃	施肥撒粒機	〃
11	〃	スピードダスター	〃
12	〃	コンバイン	〃
13	〃	トレーラー	〃
14	〃	格納庫	〃
15	〃	堀取機	町球根組合
16	〃	覆土機	〃
17	〃	トラクター	浦山新酪組
18	〃	ロータリー	〃
19	〃	ポリデスクハロー	〃
20	〃	マニアスプレッター	〃
21	〃	グレンドリル	〃
22	〃	ヘーモアー	〃
23	〃	ヘーレーキ	〃
24	〃	ドレイヤー	〃
25	〃	ヘープレス	〃
26	〃	トレーラー	〃
27	〃	尿撒布機	〃



4. 実施計画のあらまし

実施計画のかたち

基本計画で五～一〇年にわたって、やゝ長期の構造改善に対するみきわめをしたのですが、実施計画は、そのうち、はじめの三年間について短期の具体的な一応実施のできる計画です。また、事業を始めた年度から五年後に実績がどのようにあがるかを、まとめることになっていきます。つまり実施計画では、基本計画でかんがえた方針にもと

づいて実施をする三年間の事業が、五年後どのような効果をあづかるかをまとめたのが実施計画ということになります。

実施計画にとりあげられた事業のうち構改事業のねらいにふさわしい事業に対して、国が補助金や融資をかんがえてくれます。国が助成をする基準としては、土地基盤整備事業（区画整理事業等）が総事業費の四割程

度計画され、区画整理の標準は三反区画であること、機械、施設については、トラクターを中心とした大農機具であり、耕起から収穫、出荷までの一貫した組みあわせの計画であること、その場合、たとえば球根をのばすにしても、米を省力化する計画であることを要求しています。

国はこのような方針にもとづいて、これから一〇年間に、全国三、四〇〇市町村のうち、特に工業化されるか、極端な山手地域の、三〇〇市町村を除いた三、一〇〇の市町村を指定し、助成事業を完了することをめぐって行います。

実施計画のくみたて

実施計画は ①事業の総括、②実施地区別計画、③地区をこえる計画、④計画を実施し、すすめる体制の順序でくみたてられています。つまり

①三年間で、土地基盤整備事業や機械化の事業をどれだけ実施し、その事業費を、国、県、町、農家がどう負担するか。

②それらの事業は、飯野地区と浦山新地区でどのように計画されているか。（実施地区は、飯野、浦山新以外にあたらしく追加することはできません）

③町全体を対象とする、大規模な集出荷、加工施設の計画はどうか。

④計画を実施しおしすすめて構造改善の成果をあげるためには、関係機関や団体がどのような役割をはたすかが実施計画の内容です。入善町では、三年間にそれぞれの事業主体が約七億円（うち土地基盤整備事業約七五％）を実施し、そのうちで一、四八七万円を構改事業の国県の補助金を受けて実施（つまり構造改善事業として）する計画になっています。

なお、構改事業の補助率は、国が五割、県が土地基盤整備二割、機械化施設一割に決定しましたが、計画当時は国の五割だけとなっています。

地区のあらまし

1. 自然
飯野地区は、旧飯野村ではなく、三年間で区画整理をする約三〇〇町の範囲で、ほぼ六部落にまたがっています。耕地面積は一五六町で、ワキ水の出るところがほとんどです。

2. 経営
農家戸数一七〇戸、一戸当り耕地は九反一畝で、町でもっとも兼業のすんでいる地区です。

3. 働き手
農業の従事人口一戸当り二、四七人(女一、四)で町のほぼ平均です。

4. 生産
農業総生産額の約七六%(町平均は八〇%)を米が占めています。米反収は町でもっとも低い地区です。

5. 農機具
町全体の状態とあまりかわっていません。耕うん機と防除機が大きなのびています。脱こく機と糶すり機は町平均よりやや低くなっています。

5. 飯野地区計画のあらまし

目標のおおすじ

飯野地区計画の、中心となるかんがえを、ざっとまとめてみますと、

「区画整理、道路、用排水改良を実施し大型農機具をとり入れることによって、米の労力を落し、その労力を球根をつくることにふり向けるか、ソトへ勤めに出やすいようにする。農作業は集団でおこなう、機械と労力のロスを少なくする。それによって自立経営農家を育て、農業の所得と農外の所得を増加し、婦人と老人の労働を軽くする」

ことにねらいをもっています。もう少し具体的に整理してみますと次のようです。

項目ごとの目標

①農家の区別
農家戸数や農家が球根等を取り入れる、ある

	戸数		面積		生産額		割合	
	現在	改善後	現在	改善後	現在	改善後	現在	改善後
米	170	168	147	158	76.1	76.1	34.8	34.8
球根	17	84	2	33	5.1	5.1	55.6	55.6
他計	—	—	—	—	18.8	9.6	—	—
計	170	168	—	—	100	100	—	—

④土地利
用の見とおし
耕地面積は、区画整理によって一五六町から一六六町に増え、耕地の利用率は球根の増反によって現在よりも二〇%高くなる見とおしです。

	農家数		農家数	
	現在	改善後	現在	改善後
総農家数	170戸	168戸	5	35
内わけ				
商品農家	148	84	17	49
半商品農家	—	—	—	—
自給的農家	—	—	—	—

いは農外収入の増加にともなうてどう見とおしされるかを次のように目標しました。

ります。

・半商品生産農家は、商品生産農家と自給的農家の中間にある農家です。この層の農家は、商品生産農家と自給的農家に分れてゆき、戸数が減ることをみました。

・自給的農家は、経営規模が小さく、家計費のほとんどを農外収入によっている農家です。ツトメ人等が増えることによって戸数の増を見こんでいます。

②営農のかたちの見とおし
改善後の営農のかたちは、従来の生産組合が集団で農機具を共同所有し、農作業も共同でやるつまり営農を集団でやる計画です。

③農業生産と作目の組合わせ
現在、米以外に目立った作目はありませんが、これからは球根をのぼす計画です。それによって地区の農業総生産額を現在の約四七百万円を改善後は約一三二百万円(現在の二八〇%)に増加する計画です。

⑤機械、施設をどうととのえるか
機械、施設は、トラクタ一等を骨にして大型化をかんがえ、集団共同利用をかんがえています。トラクタ一等を購入する反面、耕うん機等の台数がへることになりましたので、機械、施設の費用は安くなる見とおしです。

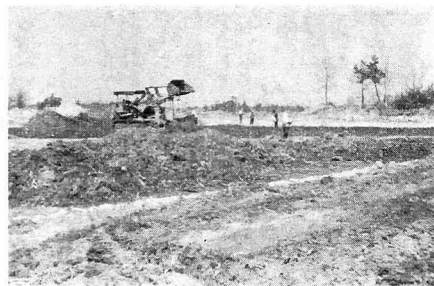
⑥農業の働き手と収入の見とおし
集団作業と機械化によって、球根を増反してもなお、総労働人員を約四五千人から約二三千人に減らし、反当りでは米二四人が四人に、チューリッブ七一、九人から二〇、九人とおおきくへらす計画です。それによって所得を延人員一人当りでは約七〇〇円を三、〇〇〇円に、働き手一人当り一〇五千元を五〇九千元おおきくのぼす計画です。

(現在を100とした改善後の生産性の伸び)

作目	単位当り労働人員	単位当り生産額	1人当り生産額	単位当り所得額	1人当り所得額
米	16.7%	125.8	759.2	133.3	799.6
球根	40.3	149.1	622.1	171.7	724.0

(現在を100とした改善後の総体の生産性の伸び)

総生産額 a	総延人員 b	働き手 c	a/b	a/c
280.0	51.6	46.0	541.0	609.2
総所得額 d	d/b	d/c		
222.9	432.2	484.6		

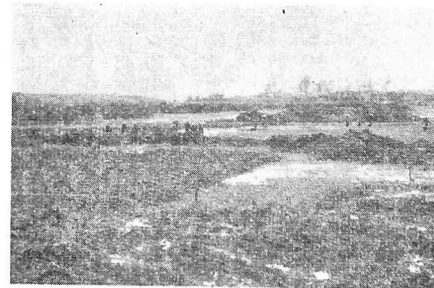


鉦原工区

区画整理

アマ士くばりがはじまっている

高島工区



現地では県農試を中心に、稲作のやり方の相談がかさねられている

投資効果のみとおし

項 目	金 額 千円
1. 新規投資額(事業費)	203,590
2. 費用の純増加 (1)-(2)	35,411
(1) 費用の増加	50,384
ア、資産的経費	15,076
ア) 償 却	6,105
イ) 利子額(平均)	2,866
ウ) 修繕費	6,105
イ、労 務 費	9,306
雇用労働費	9,306
ウ、資 材 費	26,002
ウ) 種子、種苗、肥育用仔豚和牛	19,822
カ) 肥 料	1,656
キ) 飼 料	1,860
ク) 燃 料	1,276
ケ) その他	1,388
(2) 費用の減少	14,943
エ、資産的経費(内訳上記に準ず)	1,859
オ、労 務 費	8,734
カ、資 材 費	4,101
キ、その他	249
3. 生産増加見込額	44,141
4. 自家労働節減(増加額)	12,317
5. 利益増加額(3+4-2)	21,017
6. 利 益 率(5/1)	10.2

一般の土地改良事業を含む投資と
そのために必要な経費に対して、ど
れだけの増産と省力の効果をあげる
かを計算したのがこの表です。つま
り3～5年投資することによって、
5年後には1年間にどれだけの利益
があるかをまとめたものです。飯野
地区は約1割の利益が見こまれます

稲 作 作 業 と 労 力 の 見 と お し (10アール当り)

項目 作業名	現 在 稲 作				機 械 化 移 植 稲 作				機 械 化 直 播 稲 作			
	時 期	作業機械	1時間 当作業 量	所要 労働 時間	時 期	作業機械	1時間 当作業 量	所要 労働 時間	時 期	作業機械	1時間 当作業 量	所要 労働 時間
苗代一切	4月中			8.0	4月中			8.0				3.0
畦 塗 り				6.0	コンクリート畦畔				コンクリート畦畔			
基 肥	4月下旬～5月上旬			7.0	施肥撒粒機	54a	0.2					
耕 起	4月下旬～5月上旬	動力耕耘機	5.0a	2.0	トラクター	11	1.0	4月上旬～4月中	トラクター	11a	1.0	1.0
代 か き	5月上旬～5月下旬	〃	7.0	1.5	〃	11	1.0	4月下旬～5月上旬	施肥播種機	18	3.0	3.0
田 植	〃	〃	0.3	35.0	5月上旬～5月中	〃	0.3	35.0	碎土 施肥 播種			
追 肥				2.0								
除 草	5月中旬～6月中	中耕除草器	2.0	19.1								
水 管 理				14.4				5.0				5.0
防 除	6月中～8月下旬	動力防除機	9.0	1.4	6月下旬～8月下旬	スピードダスター	200	0.3	6月上旬～8月下旬	スピードダスター	200	0.3
刈 取	8月下旬～9月下旬		0.4	30.0	コンバイン	22	1.0	9月下旬	コンバイン	22	1.0	1.0
乾 燥	〃		0.4	30.0	8月下旬 9月下旬	共同乾燥 調整施設 穀運搬	2.0 0.5	9月下旬	共同乾燥 調整施設 穀運搬	2.0 0.5	2.0 0.5	2.0 0.5
脱 穀	9月上旬～9月下旬	動力脱穀機	0.2	30.0								
穀 す り	〃	動力穀すり機		8.0								
計				192 (24.0人)				54.0 (6.8人)				15.8 (2.0人)

◇ 善 後 に お け る 経 営 類 型 別 の 目 標 (1戸当り)

区 分	経営類型	稲 作 経 営		水稲作を中心とする球根経営		水稲作を中心とする酪農経営	
		改 善 後		改 善 後		改 善 後	
1. 規 模 耕 地	水田 その他 草地 温室 乳牛	300.0a		150.0a 50.0		147.0a 61.0 55.0	
2. 労 働	能力換算人員 年間労働時間 年間労働日数	A 1.5 B 960 C 120		肥育牛 1 1.5 1,562 195		9 2.6 4,463 559	
3. 収 入	米 球 根 肥育牛 産犢 牛 乳 自 給 飼 料	838,500		390,000 400,000 肥育牛 61,400		381,225 200,000 824,985 141,460	
計	D	838,500		851,400		1,547,670	
4. 支 出	E	251,500		380,000		638,100	
5. 所 得 (3～4)	F	587,000		471,400		909,570	
6. 自 己 負 担 金	G	150,000		100,000		533,000	
自己負担金利子(10%)	H	15,000		10,000		53,300	
7. 自家労働報酬(F-H)	I	572,000		461,400		856,270	
8. 所 得 率 (D/F)		70		55.4		58.8	
9. 1人当り所得 (F/A)		391,333		14,267		349,450	
1人当り労働報酬 (I/A)		381,333		307,600		329,450	
1日当り所得 (F/C)		4,891		2,417		1,627	
1日当り所得報酬 (I/C)		4,766		2,366		1,532	

計画が順調にすすみ、農業収
入や農外収入がのびてゆくた
め

には、なんといっても稲作の労
力をうんとへらす必要がありま
す。稲作にも、普通の田植作、
球根あとの田植作、直播(乾田
)作の三つの型がかんがえられ

ます。ですから品種の組あわせ
や、球根作業とのつながりを充
分しながら、機械の利用と労力
の配分を上手にやるかんがえで
す。作業は、最高責任者の生産

組合長(?)の総かつのもとに
作業部門の責任者の指示にした
がって、農作業に従事すること
になるとかんがえられます。

稲作の作業と労働時間の計画

地区のあらまし

浦山新地区は、旧新屋村浦山新部落全体ではなく、一応区画整理がなされている円地尻の範囲を地区としています。浦山新部落は町でもっとも乳牛の密度が高く、円地尻では、大農機具の効率的な利用が充分かんがえられたからです。酪農をのばすためには、飼料をつくるのが先決ですので、隣の黒部川河川敷に6町以上の草地を造る計画です。

この地区の農家(円地尻関係農家)は、専業農家率と第1種兼業農家率が高く、農機具や施設の普及度も高くなっています。地区の農業生産額のうち約77%を米が占めており、乳牛は約14%となっています。

目標のおおすじ

浦山新地区計画のねらいは、飯野地区計画のかがえとはほぼ似ていますが、基幹作目が市乳ですので、作業と労力の組みあわせが違ってきます。

むろん、飯野地区と同様に乳牛と施設は町全体でふやす計画です。まず、米の労力を現在の54%までにへらし、その労力を乳牛にふり向けるか、そとへ勤めに出やすいようにします。

乳牛の飼育管理は、個人でやり、牧草は、草地もあわせて共同でつくる計画です。それによって農業と農外の収入を増し、できるだけ婦人と老人の労働を軽くすることをねらっています

(町のチューリップをのばす計画)

	昭和35年度	昭和37年度	昭和38年度	昭和39年度	昭和40年度	昭和41年度	昭和46年度
栽 培 戸 数	100%	113	128	144	164	184	233
栽 培 面 積	100	168	265	399	573	775	1,115
1戸当り栽培面積	100	148	202	283	351	418	486
10アール当り生産球数	100	105	110	115	120	120	130
総 生 産 球 数	100	176	292	459	688	930	1,449
総 生 産 額	100	176	292	459	688	930	1,449
出 荷 球 数	100	185	318	519	803	1,162	1,783
10アール当り出荷球数	100	110	120	130	140	150	160
出 荷 金 額	100	185	318	519	803	1,162	1,783
1戸当り販売金額	100	164	248	361	489	631	768

(チューリップの作業と労力の見とおし)

作業名	現 在 作 業 体 系						改 善 後 の 作 業 体 系					
	時 期	機 械 名	共同個人別	10a当り機械等の利用時間	作業人員	所要労働時間	時 期	機 械 名	共同個人別	10a当り機械等の利用時間	作業人員	所要労働時間
耕 起	9上~9下	耕 耘 機	個人	4.5	2	8.8	9,10 ~ 9,20	ロータリー	共同	2.0	1	3.8
整 地	10中~10下	鋤、レーキ	〃		3	11.8	10, 1 ~ 10,10	ロータリー	〃	0.6	2	4.0
施 肥	10上~10中		〃		2	8.9	10, 1 ~ 10,10	施肥撒粒機	〃	0.5	2	1.4
植 付	10中~11中	定 規	〃		5	104.2	10,15 ~ 10,25	植込機	個人		3	34.7
覆 土	10中~11中	鋤	〃		3		10,15 ~ 10,25	覆土機	共同	1.0	2	
仕 上 畦	10下~11下	〃	〃		3	23.7	10,25 ~ 11,10	〃	個人		2	12.8
病株採取	3中~6上	ホーク	〃		2	13.8	3,25 ~ 3,30 4,15 ~ 4,20	人力(ホーク)	個人		2	11.1
薬剤散布	3中~5下	噴霧器	〃	1.25	2	14.5	①4上 ②4中 ③5上 ④5中 ⑤5下 ⑥11下	大型動撒	共同	0.25	2	1.4
灌 水	4下~6上	〃	〃		1	2.9	4,下 ~ 6,上	〃	個人		1	2.3
摘 花	4下~5中	〃	〃		2	14.0	4,25 ~ 5,3	摘花機	共同	0.5	2	10.0
堀 取	6上~7中	ホーク	〃		5	236.2	6,15 ~ 6,30	堀取機	〃	1.0	3	78.7
水 洗	〃	籠	〃		2		6,15 ~ 6,30	洗滌機	〃	1.0	2	
消 毒	〃	桶	〃		2		9,25 ~ 9,30	消毒器	〃	7.0	2	
乾 燥	〃	〃	〃		2		6,15 ~ 7,2	通風乾燥機	〃	24.0	2	28.3
選別選種	7上~8中	リ ン グ	共同		4	62.5	7,10 ~ 7,15	選別機	〃	4.6	3	
出 荷	〃	〃	〃		3	57.0	7,15 ~ 7,25	数読機	〃	3.5	3	28.5
貯 蔵	7下~10中	〃	個人		2		7,中 ~ 10,中	貯蔵庫	〃		1	
そ の 他					1	17.0					1	16.0
計					46人	57.33 (71.9人)					36人	233.0 (29.0人)

球根ののびと作業計画

球根は、今までも順調にのびてきていますが、計画では、それと同じくらいののび率を見こんでいます。球根は、米などに比較して

非常に労力がかかりますので作業をできるだけ機械化することが必要なので、次表のようにほとんどの作業を機械器具の共同利用にもってゆく

計画です。球根の作業のヤマと、稲作作業のヤマがそう重なりませんので、トラクター等の利用についてもやりくりができるようになります。

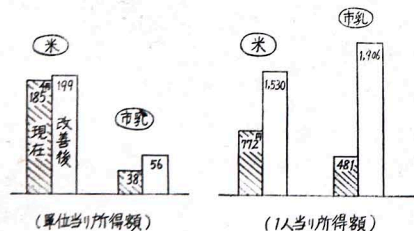
球根は、飯野地区だけでなく入善町全体が飯野地区とはほぼ同じのびで増反し農作業が機械化され省力されることをもくろんでいます

基準酪農家1戸当の収益のみとし

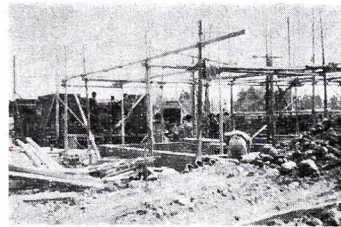
標準経営類型 現況 育成1頭→改善後 育成3頭
成牛1頭→成牛5頭

		現 況	改 善 後
収 入	牛 乳 代	156,000	759,375
	育成牛増殖費	100,000	220,000
	とく 収 入	40,000	20,000
	厩 肥 収 入	16,057	29,215
	計	312,057	1,028,590
支 出	材 料 費	4,468	11,565
	飼料費(自給購入)	144,222	341,171
	建 物 費	2,751	8,019
	農 具 費	2,121	6,929
	小 器 具 費	619	1,650
	賃 料 費	7,295	15,686
	乳牛償却費	34,900	150,419
	労 働 費	56,939	150,000
	地 代	1,137	3,176
	利 子	16,099	56,411
租 税 公 課		8,106	28,686
その他の費用			
計		278,657	773,712
差 引 純 利 益		33,399	254,878

牛乳 1kg当生産費 現況27円→改善後 17円



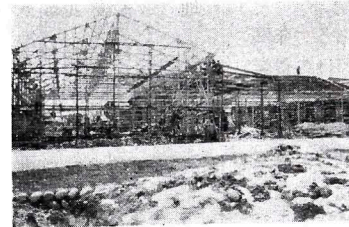
区 分	年 次 別	年 始 頭 数	増 加		計	減 少			計	年 末 頭 数
			生 産	市町村外からの導入		市町村外へ転出	死 亡	廃 用		
浦山新	現 在	2 5	8	3	3 6	-	1	3	4	3 2
	3 年 次	6 2	2 4	1 0	9 6	-	2	8	1 0	8 6
	5 年 次 (改善後)	1 0 4	4 6	-	1 5 0	1 9	4	1 7	4 0	1 1 0
入善町	現 在	1 2 5	5 1	3 6	2 1 2	3	4	1 8	2 5	1 8 7
	3 年 次	4 9 8	1 5 0	1 2 0	7 6 8	7 0	1 5	5 5	1 4 0	6 2 8
	5 年 次 (改善後)	7 7 8	2 1 0	8 0	1,0 6 8	-	2 2	8 0	1 0 2	9 6 6



集乳所

建設音

球根集荷所



田における飼料作の作業と労力のみとし

作物名	現 況						改 善 後					
	作業期	作業名	作業手段		10a当所要労働時間		作物名	作業名	作業手段		10a当所要労働時間	
			機 械 等 利用時間	機 械 等 利用時間	作業人員	所要労働時間			機 械 等 利用時間	機 械 等 利用時間	作業人員	所要労働時間
イタリアン・れんげそう混播	八月下旬	堆肥運搬	荷車・人力	撒布	1,0	2,0	イタリアン・れんげそう混播	堆肥運搬	トラクター 18HP		0,4	2,0
		施肥	4HP 耕耘機	ロータリー	1,4	1,5		堆肥施用	トラクター 18HP		0,2	2,0
		耕 起	ロータリー		1,4	1,5		耕 起	マニヤスプレッター		0,7	2,0
		畦 立	耕耘機		0,2	1,5		畦 立	トラクター 18HP ロータリー		0,4	2,0
		播 種	人力撒播		-	1,0		播 種	ク デスクハロー		0,2	1,0
	八月下旬	追 肥	牛尿・桶		1,0	2,0		追 肥	ク グレンドリル		0,4	1,0
		小 計				14,6		小 計				4,4
	八月下旬	刈 取	鎌			2,0	イタリアン・れんげそう混播	刈 取	トラクター 18HP へイモア		0,2	1,0
		乾 燥	天 日 乾 燥			2,0		乾 燥	天 日 乾 燥 (1日間)			1,0
		乾 草	熊手又はフォーク			1,0		乾 草	トラクター 18HP へイレーキ		0,1	1,0
		集草結束	ク			2,0		集草	ク		1,0	0,1
		運 格	テラ 又は 荷車		0,3	2,0		運 格	ドライヤー (ほ場乾燥)		1,2	1,0
イタリアン・れんげそう混播	八月下旬	乾 草				2,0	イタリアン・れんげそう混播	乾 草	へ イ プ レ ス		0,3	2,0
		乾 草				2,0		乾 草	ト レ ー ラ ー		0,2	2,0
		乾 草				2,0		乾 草			2,0	0,5
		乾 草				2,0		乾 草				3,8
		乾 草				2,0		乾 草				8,2
	八月下旬	小 計				21,6		小 計				3,8
		合 計				36,2		合 計				8,2

7. 地区をこえる計画のあらまし

構造改善事業が順調にすすめられ経営のしくみが改善され、球根や牛乳の生産がどんどんふえる見とおしにあわせて、球根や牛乳の集出荷や加工施設も改善されてゆかねばなりません。むしろ、生産物が統一された体制で能率よく集出荷され、牛乳等が処理されることによって商品としての価値がたかまり市場での評判と存在が良くなることも、もっとも大切なといえます。その点入善町の計画は他の五地区にくらべて、それらの施設が重視されています。

基幹作目ごとに、施設を中心にしたかんがえをまとめてみますと次のようです。

◇球根

栽培から出荷にいたるまで、半独占といえるほど、県球根農協の指導が統一され、徹ていしてありますので、組織体制については心配ありません。

施設については、集出荷所一棟二〇〇坪を現在の集出荷所の東隣りに建築中ですし、第三年次に球根貯蔵所一棟三〇〇坪をつくる計画です。

◇市乳

さらに将来、自力で集出荷所をつくる計画になっており、やがては砺波地方と肩をならべる球根産地になるみとおしです。

酪農につきましては、町酪農協が健全に運営され、町内の一元集乳と処理もあわせておこなっており、県下でもその面では、もっともまとまって経営されているといわれていますが、構造改善による乳牛のびにとともに、集乳処理施設を改善する必要があります。集乳所一棟一〇七坪を建築中です。

将来は、黒東地域全体のセンターとすることが検討されるでしょうし、舟見、野中地内に仔牛育成団地をつくることもかんがえています。

(構造改善補助事業のあらまし)

構造改善補助事業のあらまし

入善町全体では、昭和37年度から3ヶ年間に、国、県の補助金を受けてこれだけの農業構造改善事業をおこなう計画です。もちろんそれ以外に土地改良事業や、農業近代化資金や自己資金で設ける、畜舎や農機具等があり全体の事業や施設がいわゆる有機的なつながりをもって無駄のないようにすすめられる必要があります。

総事業費が、当初計画の額と差があるのは年度実施計画をつくる段階で事業費が増えたためです。第2年次以降の事業についても将来、事業費等の変ることがかんがえられます。

町は、構造事業や、これからつくる予定の農業計画を順調にすすめる立場から、関係課の連けいをきん密にするため、町農業計画連絡会議を、また、事務作業を処理する体制として町農業計画事務局を設けました。

入善町農業計画連絡会議

議長 清田助役

町農業計画事務局

- | | |
|----------|-----------|
| 事務局長 | 竹島産業課長 |
| 庶務・調整・戸口 | 水野主事 産業課 |
| 〃 | 徳光 〃 〃 |
| 農地 | 上原 〃 (農委) |
| 土地基盤整備 | 平崎技師 建設課 |
| 穀しゆく | 盛田 〃 産業課 |
| 園芸特産 | 尾崎 〃 〃 |
| 畜産 | 早川主事 〃 |

地区名	改善後の 基幹 作目	助成 区分	事業区分	総事業量	総事業費	地区名	改善後の 基幹 作目	助成 区分	事業区分	総事業量	総事業費							
飯 野 地 区	米 花き 球根	補助 事業	区画整理事業 計	30.9ha	千円 30,200 30,200	浦 山 新 地 区	米 市乳	補助 事業	トラクター	1台	千円 750							
			ロータリー	1	150													
			ポリデスクハロー	1	120													
			マニアスプレッター	1	200													
			グレンドリル	1	250													
			ヘーモアー	1	120													
			ヘーレーキ	1	70													
			ドライヤー	1	160													
			ヘープレス	1	100													
			トレラー	1	100													
			尿撒布機	1	300													
			計		2,320													
合 計		2,320																
					32,750	地区をこえ る施設	補助 事業	集出 荷 所	1棟 660㎡ 機械器具一式	12,034								
								貯 蔵 所	1棟 990㎡ 機械器具一式	18,000								
								集 乳 所	1棟 352㎡ 機械器具一式	15,940								
								ブルトザー	1台	5,600								
								合 計		51,574								
								入 善 町 地 域 計		土地基盤整備事業 経営近代化施設	計		30,200					
													86,644					
													116,844					
								合 計					62,950					